

いたしん ニュース

ITAMISHI KONCHUKAN NEWS

第14号 2010/2

特集 昆虫写真の撮り方楽しみ方



キリギリスの交尾 撮影：年神和明



ハラビロカマキリ「ごまんぞく」 撮影：佐伯昇馬



伊丹市昆虫館

ほっとパーク昆陽池

昆陽池公園のバッタ類

昆陽池の昆虫シリーズ第4弾はバッタ類(以下バッタ)を紹介します。バッタはバッタ目に分類される昆虫のうち、コオロギやキリギリスなどいわゆる「鳴く虫」をのぞいた仲間(バッタ亜目)です。昆陽池公園にはここに紹介する4科11種が確認されています。

バッタがいる場所といえば草むらが多いのですが、昆陽池公園には草むらがあまりないため、バッタは多くありません。南側の草生地広場や北側のビオトープ(通常は閉鎖)などに見られます。(坂昇)

バッタ科

■ショウリョウバッタ *Acrida cinerea*

メスの大きさが10cmを超える、大きなバッタです。飛ぶときに“チキチキ”と音を立てるので、チキチキバッタとも呼ばれます。



トノサマバッタ

■トノサマバッタ

Locusta migratoria

市内では猪名川河川敷などで多く見られます。飛ぶ力にすぐれ、オスは100m近くも飛ぶことがあります。

■クルマバッタモドキ

Oedaleus infernalis

形はトノサマバッタに似ていますが、背中に“X”の線が入っています。後ばねに黒いすじがあるのも見分けるポイントです。



クルマバッタモドキ

■ツチイナゴ *Patanga japonica*

トノサマバッタによく間違われますが、目の下の涙のような模様で見分けます。成虫で冬越しします。



ツチイナゴ

■コバネイナゴ *Oxya yezoensis*

いわゆる「いなご」。田んぼだけでなく草むらにたくさんいます。信州などでは佃煮にして今も食べられています。



コバネイナゴ

■イボバッタ *Trilophidia japonica*

乾いた地面でじっとしている事が多いバッタです。草の上より地面によくいます。でこぼこの体は、見事に地面にまぎれてしまいます。

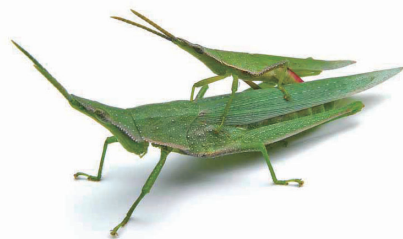


イボバッタ

オンブバッタ科

■オンブバッタ *Atractomorpha lata*

昆陽池公園で最もよく目にするのはこのバッタでしょう。おんぶされて上にいるのがオスです。おんぶは他のバッタもよくします。



オンブバッタ

ヒシバッタ科

■トゲヒシバッタ *Criotettix japonicus*

体の両横に、大きなトゲがあります。コケなどを食べているようです。

■ハネナガヒシバッタ *Euparatettix insularis*

ハネが長いヒシバッタ。よく飛びます。

■ヒシバッタ *Tetrix japonica*

背中がひし形をしているとても小さなバッタ。色や模様の変化がはげしく、同じ場所にもさまざまなもののヒシバッタがいます。



ヒシバッタ

ノミバッタ科

■ノミバッタ *Xya japonica*

ヒシバッタよりさらに小さなバッタで5-6mm程度です。後ろ足が太く、ノミのようにおどろくほど高く跳べるので、ノミバッタと呼ばれるようです。素早く高く飛ぶので、見つけてもすぐに見失ってしまいます。



ノミバッタ (前田一郎氏提供)

むしムシ虫眼鏡

Vol.14 潜って飛んで泳いで走れる万能選手



アンパンマンの作者、やなせたかしさん作詞の名曲「手のひらを太陽に」に登場するケラ(オケラ)は、昆虫界随一とも言える抜群の運動神経の持ち主です。モグラそっくりの外見(英名はなんと mole cricket = モグラコオロギ)が示すように、土に潜って掘り進むのは得意中の得意で、空を飛ぶことも水の上を泳ぐことも上手です。力もとても強く、ケラを手のひらで軽く握って閉じ込めると、前脚で人間の指の隙間をこじ開けて出てきてしまいます。このように多芸なケラですが「おけらになる」という言葉には、なぜ

〈ケラ〉

学名: *Gryllotalpa orientalis*

分類: バッタ目 ケラ科

体長: 約 30mm

分布: 日本全土

か「一文無しになる」という意味があります。これはケラを正面から見ると、前脚が万歳しているように見えるため、無一文になってお手上げ状態になった様子を連想させるからです。なんでもできる反面、ケラはお金にだけは恵まれない昆虫なのかもしれませんね。(奥山清市)



まさに「お手上げ」

亜熱帯の温室から

Vol.14 サラセニア

食虫植物は、他の植物が育たない栄養分が乏しい湿地帯で、様々な工夫をこらして昆虫を捕らえ養分にしています。サラセニアは、捕虫袋を持つウツボカズラと同じく落とし穴式ですが、虫を捕らえる捕虫葉がラッパ型をしています。落とし穴の付近から蜜を出して虫を誘います。そして少しでも落とし穴に体が入ってしまうと、捕虫葉の内側に生えている逆毛によって、もがけばもがくほど底のほうに落ち、その中で消化・吸収されてしまいます。食虫

植物が出す蜜には昆虫をフラフラさせるような成分を含むものもあるそうです。

チョウ温室の中にサラセニアを配置すると、特に午前中に数種類のマダラチョウの仲間が集まり、ストローを伸ばして蜜を吸い始めました(写真左)。ほとんどのチョウはご馳走様ですんだのですが、口径の大きな穴に落ちてしまうチョウがいたため、落下防止のために穴に綿をつめて展示することになりました。蜜源植物として活用するためにはもう一工夫必要ようです。

サラセニアは北アメリカ南・東部やカナダに自生して寒さに強く、春に咲く花もきれいなので(写真右)屋外花壇にも取り入れたい植物です。(後北峰之)



ストローを伸ばすスジグロカバマダラ



春に花を咲かせるサラセニア

〈サラセニア〉

学名: *Sarracenia* spp.

分類: サラセニア科

特集【昆虫写真の撮り方】

デジタルカメラを使うことで昆虫写真は手軽に撮れるようになってきました。この記事の作品をお手本に、みなさんも昆虫写真を撮って、楽しんでみませんか？

デジタルカメラで昆虫観察

昆虫の観察にコンパクトデジカメを使ってみよう

昆虫を観察をするとき、メモを書いたり、スケッチをとりながら記録を残すことはとても重要です。それに加え、昆虫の複雑な形や色、一瞬の動きまでをもとらえ、画像として記録することのできる写真はとても便利な方法です。

最近のデジタルカメラは性能がとても良くなり、昆虫写真を撮るための十分な機能を持つものが増えてきました。とくにコンパクトデジカメはピントのあう範囲が広く、昆虫の観察記録を残すためのカメラとして最適です。とはいえ、体が小さく、動きのすばやい昆虫

を写真に撮るには、いくつかコツが必要です。今回はコンパクトデジカメをつかって昆虫写真を撮る方法について紹介してみたいと思います。



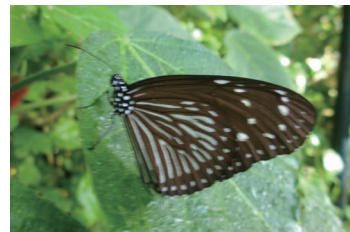
コンパクトデジカメ（オリンパスμ 1020）

まずはカメラの持ち方・かまえ方

まずはきちんとしたカメラの持ち方を覚えましょう。カメラを持つときは必ずストラップを手首に通します。これで夢中になって撮影や観察をしていても、カメラを落としてこわすことはありません。写真を撮るためにカメラをかまえるときは、ワキをしめてしっかり持ちます。手はできれば壁や地面などに沿わせて、カメラを固定しましょう。シャッターを押すときは呼吸をとめ、なるべく手がふるえないようにすると、手ぶれのないシャープな写真が撮れます。手ぶれ補正機能のついたカメラもありますが、過信は禁物です。



ストラップを手首に通し、ワキをしめてかまえる



手ぶれしてしまった写真

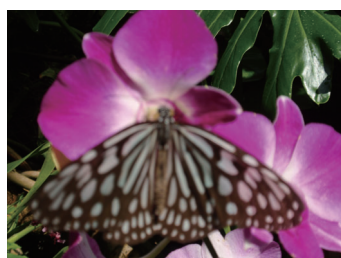
デジタルカメラの使い方

マクロモードをつかう

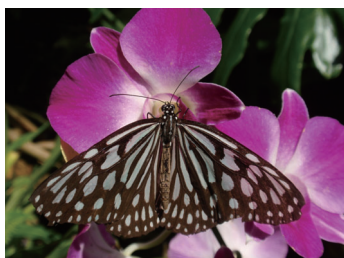
小さな昆虫を画面いっぱいに拡大して撮影するには「マクロモード」（機種によって名称が異なったり、マクロモード機能のない場合があります）という機能を使いましょう。被写体にググッと近づいてピントをあわせることができます。



マクロモードの設定画面



マクロモードオフの例



マクロモードオンの例

ピントは昆虫の「あたま」にあわせよう

昆虫の写真を撮るときは、ピントをどこにあわせるかが重要です。基本的にピントは昆虫のあたま（とくに眼）にあわせるのがよいとされています。あたまにピントがあっていると、ほかの部分が多少ぼやけていても、昆虫の体全体の雰囲気わかる写真になります。小さな昆虫にピントを合わせるのは難しく、練習が必要です。デジタルカメラであれば失敗した写真のデータは消せばいいので、メモリに余裕があればピントを少しずつずらした写真をたくさん撮って、後で気に入った写真を選んでよいでしょう。



おなかにピントがあっている例



あたまにピントをあわせた例

楽しみ方

ここではデジタルカメラの使い方や撮影のコツを紹介します。ジュニア写真家

お手本 ジュニア写真家の作品

伊丹市昆虫館友の会会員のジュニア写真家

ここで昆虫写真のお手本として、伊丹市昆虫館友の会会員のジュニア写真家、年神和明さん（中学1年生）と佐伯昇馬さん（小学5年生）の作品をコメントとともに紹介します。二人とも撮影技術の高さはいうまでもなく、ほんの一瞬のシャッターチャンスを見逃さないように粘り強く昆虫を観察し、すばらしい写真を撮りつづけています。



<< キリギリスの交尾 >>

武庫川の河川敷から採集したオスとメスを家の前の草に放すと、オスが鳴き出した。メスが近づき、オスの背中をなめはじめ、その間に交尾をした。しばらくするとオスは精包(せいほう)をメスの腹部の先端につけた。交尾が終わるとメスは精包を食べた。

(2009年7月 年神和明 撮影)



<< ごまんぞく >>

ぼくはカマキリが好きでカマキリのいろんな表情をとってみたい。おそいかかってくる時の力強さ、ふざけているようなしぐさ、とてもかわいい表情など、どれも大好きだ。写真はハラビロカマキリ。

(2008年8月 佐伯昇馬 撮影)

昆虫写真を楽しもう

見て、撮って、楽しもう

昆虫写真はデジタルカメラを使うことで手軽に楽しむことができるようになってきました。これを読んだみなさんも、野外観察のお供にカメラを持って行き、どんどん昆虫写真を撮ってもらえたらうれしいと思います。(長島聖大)



ヨツスジトラカミキリのいきいきとした白バック写真



体の一部分をアップで撮るのもおもしろい
(シブイロカヤキリの顔面)



昆虫の観察記録を写真で撮っておくのも重要ですよ
(セダカコブヤハズカミキリの生息環境)

「さいきんの

台湾シロチョウの雌雄型

昆虫には、まれにオスとメスの特徴がまじってあらわれる「雌雄型」という突然変異がおこります。2009年10月下旬に見つかった台湾シロチョウはおしり（交尾器）を見るとオスでしたが、はねの模様は左が黒っぽいメス、右が白いオスになっていた、雌雄型だったのです。

いきさつはこうです。いつものように飼育スタッフがチョウ温室の中で作業をしている時、なんだか違う雰囲気の中にお蝶がいることに気づきました。おかしいので捕まえてみると、左右のはねの模様が違っていたのです。実は、毎日羽化したチョウは数やそのオス、メスを記録し、温室に放チョウしているのですが、その時は気づかれず飛ばされていたようなのです。

この台湾シロチョウの雌雄型は1995年にも1個体が出ていて、今回とは左右のはねの模様が逆

になっています。その標本とともに、14年ぶりに発見された台湾シロチョウの雌雄型を現在展示しています。飼育下だからこそ発見される、不思議な「雌雄型」をこの機会にご覧ください。（角正美雪）



台湾シロチョウ メス



台湾シロチョウ オス



今回（左）と過去（右）に発見された雌雄型の標本

昆虫館来館者数300万人達成！！

2009年11月29日、300万人目の来館者をお迎えしました。記念すべき300万人目の来館者は大阪市からお越しの平島さんご家族でした。入館されると拍手で迎えられ、花束が贈呈されました。館内放送で300万人目の来館者が来られたことがアナウ

ンスされると、館内にいらっしゃるお客様も一緒にお祝いしました。

続いて記念式典がチョウ温室で行われました。くす玉をひっばると、中から10種類100匹ものチョウが飛び出し、その場には歓声とともに拍手がおこりました。また記念ラベルがついた青く輝くモルフォチョウの標本や、「むしのうんこ」などの図書、昆虫館オリジナルシールやバッジと昆虫館ならではの記念品が贈呈されました。平島さんご家族は、はじめはおどろいていらっしゃいましたが、とてもいい記念になったと喜ばれていました。

昆虫館がオープンした1990年11月10日から19年を経て、来館者数300万人を達成しました。これからも多くのみなさまを迎えられるよう、そしてたくさんの人々に親しまれる昆虫館であるよう、スタッフ一同取り組んでいきたいと思っています。（角正美雪）



300万人目の平島さんご家族

飼育室から

迷チョウ「カバマダラ」伊丹に飛来

2009年10月14日、伊丹市内の猪名川河川敷にてカバマダラを確認しました。河川敷の昆虫調査中、コセンダングサの群落を舞飛ぶツマグロヒョウモンに似たチョウを捕らえると、市内初記録のカバマダラだったのです。カバマダラは沖縄や南西諸島等に分布するチョウですが、気流や台風等の強風に乗って遠方に飛来する迷チョウとして知られています。注意深く探すと20匹位確認でき、交尾中のものもいました。そして河川敷



成虫：コセンダングサの花で吸蜜

に生えるガガイモ（カバマダラの幼虫の食草の一つ）を見ると卵や幼虫まで確認でき、なんと周辺で繁殖しているようでした。迷チョウとしてのカバマダラの記録は徳島県や和歌山県でもしばしば報告されていますが、冬の寒さは苦手のように越冬の事例はな

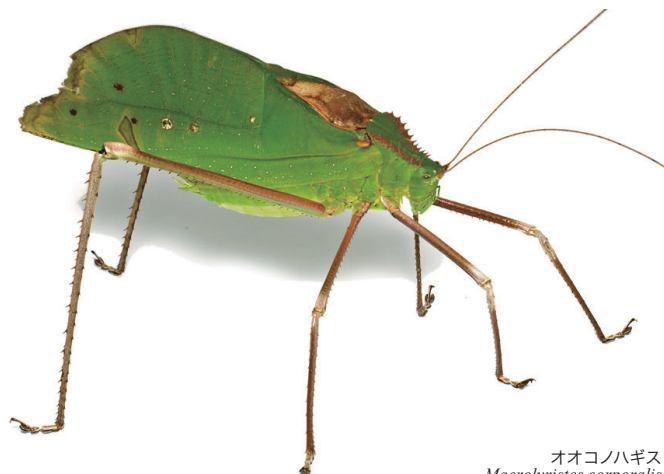


幼虫：ガガイモの葉の裏で卵と幼虫を発見

く、やって来たその年の内に死滅してしまうそうです。11月下旬再び現地を訪れましたが、生きたカバマダラを確認することはできませんでした。（野本康太）

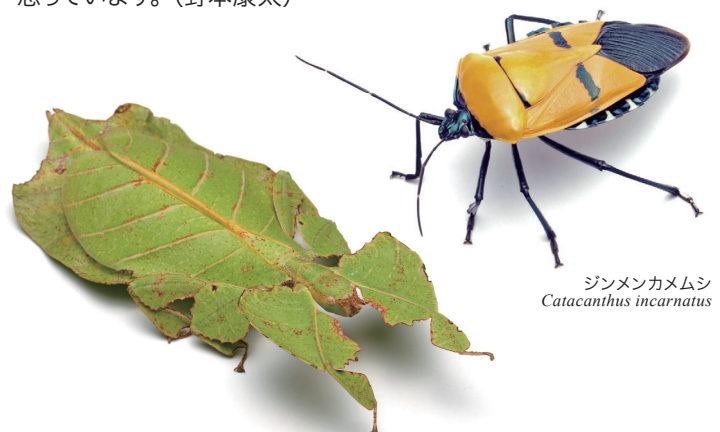
外国産昆虫の輸入展示

昨年夏の特別展「むしの忍者大集合」で展示を行うために、まわりの自然環境に上手に身を隠したり、奇抜な模様や格好で敵の目をくらます外国の昆虫忍者「コノハムシ」「オオコノハギス」「ジンメンカメムシ」をマレーシアから輸入しました。これらの虫はいずれも植物を食べるので、万が一日本国内で逃げ出した場合、生態系を乱すだけでなく農業害虫になるおそれがあり、植物防疫法で国内への持ち込みは禁止されています。鍵付きの2



オオコノハギス
Macrolyristes corporalis

重ケースで厳重な個体数の管理をすることや、食べ残しや糞などの熱処理等、流出防止のシステムを確立し、農林水産大臣の許可を得て、輸入と展示が実現しました。写真や標本ではなく、生きた状態で観察できるチャンスはなかなかありません。うまく続けられるかわかりませんが、どんなエサをよく食べ、どんな卵を産み、どんなふうになるのかなど観察しながら展示して行けたらと思っています。（野本康太）



ジンメンカメムシ
Catacanthus incarnatus

コノハムシ
Phyllium pulchrifolium

入館券が新しくなりました!

昆虫館の券売機の更新にともなう、入館券のデザインも新しくなりました。さらに、うら面にはこの入館券で割引サービスを利用できるお店を紹介しています。ひとつは、昆虫館のすぐ近くにある洋食屋さん「ル・メニューよし井」、もうひとつは昆陽池公園立体駐車場近くの生パスタ屋さん「HEAVEN'S KITCHEN」です。当日のみ有効ですので、昆虫館を見学したあとに、こちらのお店でお食事して、昆陽池公園での一日をゆっくりお楽しみください。(角正美雪)



入館券デザイン

折り紙販売はじめました

昆虫館の学習室で大好評の「虫の折り紙コーナー」で色つき折り紙を使ってオリジナルの虫の折り紙が楽しめるように、受付にて色つきの折り紙の販売をはじめました。1セット27枚22色入りで100円です。もちろんこれまでどおり、おひとりさま1枚まで白の折り紙は、自由に使えます。(大橋昭仁)



色つき折り紙 27枚入り 100円

2010 年度友の会会員募集中

伊丹市昆虫館友の会は、昆虫館を利用して自然と親しみ、学ぼうとする人たちの集まりです。観察会や調査会、ハイキングなど会員だけの行事のほか、年2回の「友の会ニュース」と「いたこんニュース」の送付、ミュージアムショップで昆虫採集・標本作製道具1割引などの特典があります。友の会の年度は1月から12

月まで、年度途中からの入会も受け付けます。会員になって、仲間と出会い、虫や自然と親しくなりませんか? くわしくは昆虫館までお問い合わせください。(長島聖大)

大人会員
1000円

子ども会員
500円
(小学生以上)

家族会員
1500円
(3人までの会費)



楽しい夏の合宿もあるよ!

もよおしあんない

2月

6(土) うらがわ探検
13(土) ふれあい体験「むしさんこんにちは」
14(日) 虫のおりがみワークショップ 予約制
21(日) チョウ温室ガイド

3月

6(土) ふれあい体験「むしさんこんにちは」
21(日) うらがわ探検

4月

4(日) ふれあい体験「むしさんこんにちは」
11(日) 虫のおりがみワークショップ 予約制
17(土) 春の原っぱで昆虫さがし 予約制

5月

3(月) 糸くり体験
5(水) 昆虫缶バッジプレゼント 先着 100名
8(土) ヤマユコ飼育講習会 予約制
9(日) ミツバチ観察会 予約制

6月

27(日) 虫のおりがみワークショップ 予約制

7月

17(土) セミの羽化観察会 予約制
24(土) 昆虫標本の作り方講座 予約制

特別展

7/14 ~ 11/15
7/21 ~ 8/31

20周年記念特別展 いたこん 20年のあゆみ
夏休み企画 虫のふれあいコーナー

企画展

2/10 ~ 4/5
4/7 ~ 7/5
4/7 ~ 7/5

ごきぶり
ちょうのくらし
おひさまと虫

プチ展示

4/1 ~ 5/10
5/19 ~ 7/19
6/9 ~ 6/28

昆虫グッズ大集合
だっぴ vol.2
ミツバチ

※ 2010年4月以降のもよおし・展示は内容や日程等を変更することがあります。

講習会・観察会の申込方法

くわしい内容は...

申し込むには...

・伊丹市内に在住の方
「広報伊丹」をごらんください。
※広報伊丹へは実施日の約1ヶ月前に掲載します。
電話での問い合わせには掲載以降に案内します。
※広報伊丹は伊丹市ウェブサイトでご覧になれます。
・伊丹市外に在住の方
電話でお問い合わせください。
※講習会・観察会実施日の約1ヶ月~2週間前までに
お問い合わせください。

・往復ハガキ、FAX、Eメール(携帯電話不可)で。
行事の名前、参加する全ての方のEメールアドレスなどを記入し、受付期間内にお送り下さい。
・申込多数の場合は抽選になります。
・往復ハガキの宛先住所
〒664-0015 伊丹市昆陽池 3-1 伊丹市昆虫館
・FAXの宛先番号 072-785-2306
・Eメールアドレス ge7n-skmt@asahi-net.or.jp

☐ 〒	参加希望の講座名
返信	参加希望者全員の ふりがな 名前・学年(年齢)
あなたの住所 氏名	住所
	電話番号
	(往復ハガキ・表)

☐ 〒664-0015	伊丹市昆虫館 3-1
往信	伊丹市昆虫館 3-1
行	何を書かないで ください
	(往復ハガキ・裏)

編集スタッフより

昆虫館は今年で20周年! これからもどうぞよろしくお願いいたします。(ながしま)
「昆陽池のバッタ」いかがでしたか。バッタは世界をみわたすと、結構食べられている昆虫なんです。味のレポートもいつかしたいですね。(さかもと)

次回(第15号)発行は、2010(平成22)年7月頃の予定です。

表紙写真(左) キリギリスの交尾 撮影: 年神和明
(右) ハラビロカマキリ 撮影: 佐伯昇馬

いたこんニュース 第14号 Vol.7 No.2 (通巻14号)
2010(平成22)年2月発行
発行 伊丹市昆虫館
〒664-0015 伊丹市昆陽池 3-1 昆陽池公園内
TEL: 072-785-3582 FAX: 072-785-2306
URL: http://www.itakon.com/
E-mail: ge7n-skmt@asahi-net.or.jp

編集 長島聖大・坂本昇
デザイン原案 pico*pictures
印刷 株式会社 廣済堂